

授業評価・授業研究報告書

家政教育・藤田昌子

1. 授業の概要

(1)対象授業の科目区分など

【対象授業の科目区分】教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）

【科目名】初等家庭科教育法

【登録学生数】76名

(2)目的、到達目標、関連するDP

【目的】

児童の実態や児童を取り巻く生活環境の諸課題と家庭科教育の関係性を踏まえ、現代の小学校家庭科教育の意義や課題、教育内容、指導方法等を理解し、小学校家庭科における授業実践に必要な基礎的な知識と教育実践力を身につける。

【授業の到達目標】

- 1)家庭科教育の意義を説明できる。
- 2)家庭科教育の動向と課題を説明できる。
- 3)小学校家庭科教育の目標と内容を説明できる。
- 4)小学校家庭科の教材研究ができる。
- 5)小学校家庭科の学習指導案が作成できる

【ディプロマ・ポリシー】

- ①知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。
- ②思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。

2. 授業研究・授業評価

(1)授業研究

教育現場のニーズに合わせて、本学部でも今年度から導入された授業支援ツール「ロイロノート・スクール」を用いることとした。自分自身も初めて使用するため、ロイロノート・スクールが主催する研修を自主的に6回受講し、知識や技能等を修得し、学生を指導できるように努めた。

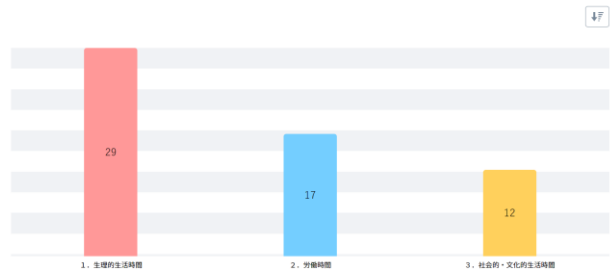
初等家庭科教育法において、第1回から第5回、第10回から第12回の計8回の講義、

第13回から第15回の模擬授業、および時間外学習においてロイロノート・スクールを使用した。その一部を以下にまとめる。

第1回

「家庭科に関するレディネスチェック」でアンケート機能を使用

【1】 A. 家族・家庭生活
「家事」は、どの生活時間に分類されますか？



第2回

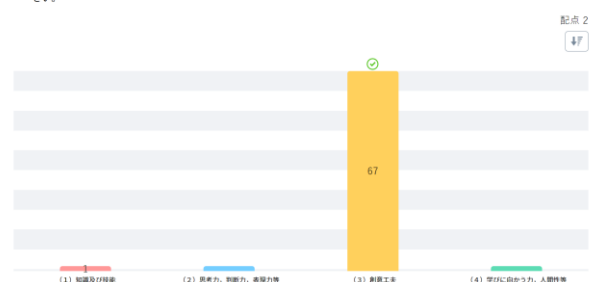
「家庭科をなぜ学ぶのか」について、学生がカードに意見を記入・提出後、共有・比較機能を使用

<p>【家庭科をなぜ学ぶのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を送れるようになるため。 環境に配慮した生活を送れるようになるため。 	<p>【家庭科をなぜ学ぶのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく生活するため 生きる力を身につけるため 	<p>【家庭科をなぜ学ぶのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で安全で快適な生活を実現するため。 生活における社会と自分の関わりを理解するため。
<p>【家庭科をなぜ学ぶのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かに生きるため。 他者と協働して生きるため。 社会の変化を捉えて生きるため。 	<p>【家庭科をなぜ学ぶのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を送るため 自分の生活における自己決定能力を身につけるため 生活に関する様々な正しい知識、思考力、判断力などを身につけるため 人と共生することの大切さを学ぶため 	<p>【家庭科をなぜ学ぶのか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来一人で生活ができるように 自身の生活を豊かにするために 社会全体も豊かにするために

第4回

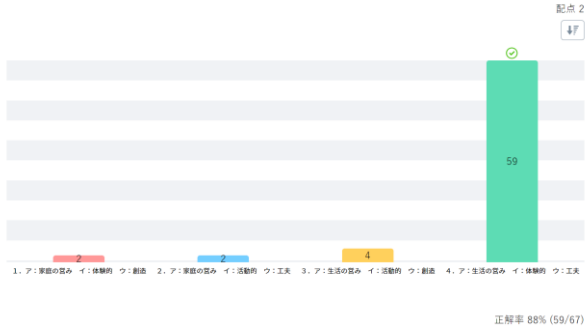
「学習指導要領」について学習後、理解度確認のためにテスト機能を使用

【1】 小学校学習指導要領（平成29年告示）「家庭」において、育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、当てはまらないものを1つ選びなさい。



正解率 98% (67/68)

【ア】に係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・「イ」な活動を通して、生活をよりよくしようと【ウ】する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



第 5 回

教員採用試験を意識し、学習指導要領に関する筆記試験問題を学生が作成し、出題→相互に解答（テスト機能を使用）

【1】 次の文は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）「家庭」に示されている指導計画作成上の配慮事項の一部である。文中の（ 1 ）、（ 2 ）に当てはまる言葉の組み合わせとして正しいものを次の選択肢から一つ選べ。

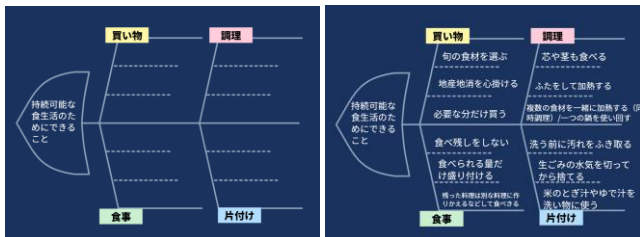
○指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 ・第2の内容の「A家族・家庭生活」の（4）については（ 1 ）活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、（ 2 ）学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させること。

配点 1

- (1) 理論的な (2) 1
- (1) 理論的な (2) 2
- (1) 実践的な (2) 1
- (1) 実践的な (2) 2

第 10 回

シンキングツールを用いた家庭科授業を体験



第 11 回

時間外学習の課題を共有
 →調理実習指導に関する工夫や留意点を議論

出席番号 () 氏名 () 調理実習を指導する際の工夫・留意点



○使用した材料
 ・ゆでた野菜：ブロッコリー、にんじん、じゃがいも
 ・生の野菜：レタス、きゅうり
 ・ソース：オリーブオイル(ごま油・大1、酢・小2、醤油・小1、砂糖・小1、糖がらスープの素・小1、にんにくチューブ、七味唐辛子、白いりごま・少々)
 ・その他：卵、ハム
 ○アピールポイント
 にんじんや卵を卵花の形にしたり、彩りを豊かにしたりすることで、見た人が食べたくなるような工夫をしました。彫刻でまったゆで卵を細く切り、ポテトサラダの中に入れて、有効活用しました。

・じゃがいもの芽や緑色になった部分には毒があるため、それらを取り除いてから調理するように指導する。
 ・食べ物を美味しく調理するために、野菜によって茹で方が異なることを、相模など野菜を分類しながら指図で示す。
 ・調理前の身支度についてもよく確認し、指導する。
 →エプロンのひもを体の後ろでしっかりと結び、髪の毛が出ないように三角巾を付け、服のそではしっかりと折れているか。
 爪は短く切り、手は石鹸でよく洗っているか。
 包丁を持つときは、包丁を持つ側の足を一歩下げ、手は指先を丸めて、猫の手にして切るように指導する。
 ・お湯を沸かす際には、顔や手、衣類を火や湯気に近づけることのないよう指導する。

第 12 回

時間外学習の課題を共有
 →布を用いた製作指導に関する工夫や留意点を議論

第 13 回から第 15 回 模擬授業での実践

受講生を 15 グループに分け、各回 5 グループが模擬授業をオンラインで行った。模擬授業では、必ずロイロノート・スクールを用いることを条件とした。講義で学んだことを活かし、カードの提出・共有・比較、シンキングツール、アンケート機能、写真教材の提示、動画の共有(Webカードの活用)など様々な工夫がみられた。模擬授業時には指導助言を行うだけでなく、添削した学習指導案やワークシート等をロイロノート・スクールにて返却し、他班の学生も見られるようにした。初めてロイロノート・スクールを使用する学生がほとんどであったが、多少の個人差はあるものの、模擬授業で活用できるレベルまで到達できたと考える。

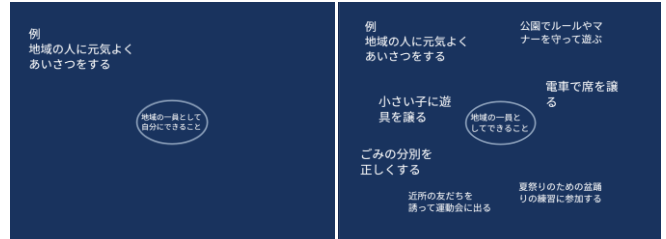
(例)8 班の模擬授業

「地域でできることは何だろう」

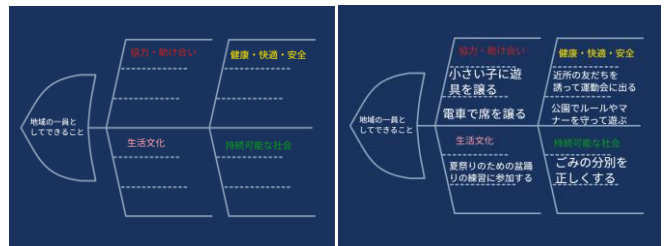
●写真教材の提示



●シンキングツール（ウェビング）



●シンキングツール（フィッシュボーン）



●カード（まとめ）

<p>1. 自分を取り組みたいこと</p> <p>〈4つの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 協力・助け合い ② 健康・快適・安全 ③ 生活文化 ④ 持続可能な社会 	<p>2. 感想</p>
---	--------------

(2)授業評価

1)学部 DP との対応

受講生 72 名から回答があり、下記のような結果であった。

①知識・理解

とてもそう思う	40 名 (55.6%)
ある程度そう思う	31 名 (43.1%)
あまりそう思わない	1 名 (1.4%)
この DP とは無関係である	0 名

②思考・判断・表現

とてもそう思う	23 名 (31.9%)
ある程度そう思う	44 名 (61.1%)
あまりそう思わない	2 名 (2.8%)
この DP とは無関係である	3 名 (4.2%)

本授業は、学部 DP に対し、「そう思う」+「ある程度そう思う」とする学生が、「知識・理解」で 98.6%、「思考・判断・表現」で 93.1% となっており、学部 DP に対応した授業内容であったといえる。

また、技能（教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている）についても、

とてもそう思う	31 名 (43.1%)
ある程度そう思う	39 名 (54.2%)
あまりそう思わない	1 名 (1.4%)

この DP とは無関係である 1 名 (1.4%)

興味・関心・意欲、態度（教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする）についても、

とてもそう思う	34 名 (47.2%)
ある程度そう思う	37 名 (51.4%)
あまりそう思わない	0 名

この DP とは無関係である 1 名 (1.4%)

と回答しており、高い評価であった。

2) 授業時間外に費やした学習時間 (1 週間)

①この授業で出された課題や予習・復習の為	
0 時間 2.8%(2.9%)	0.5 時間 2.8%(5.8%)
1 時間 45.8%(42.0%)	1.5 時間 4.2%(8.7%)
2 時間 33.3%(26.1%)	3 時間 9.7%(10.1%)
4 時間 1.4%(1.4%)	5 時間 0%(2.9%)

()は 2020 年度結果

②この授業で出された課題や予習・復習を行う以外の為

0 時間 45.8%(56.5%)	0.25 時間 1.4%(1.4%)
-------------------	--------------------

0.5 時間 6.9%(11.6%) 1 時間 34.7%(27.5%)

2 時間 9.7%(1.4%) 3 時間 1.4%(1.4%)

()は 2020 年度結果

本授業では、この授業で出された課題や予習・復習の為に 94.4%(2020 年度は 91.2%) の学生が 1 時間以上の授業時間外学習を行っていた。一方、この授業で出された課題等以外では、1 時間以上の学生は 45.8%(2020 年度は 30.3%)みられたが、0 時間の学生も 45.8%(2020 年度は 56.5%)と多かった。昨年度より改善されたものの、学生が自主的な学習に取り組めるようなしなやかな作りがさらに必要である。

3) この授業を受けて勉強になったことや身についたこと

今年度は 2 回のみ対面で実施できたが、13 回は遠隔で実施せざるを得なかったのは残念であった。しかし、遠隔授業であっても、下記のように「勉強になったことや身についたこと」として、学部 DP に対応した記述が多数みられた。

(DP 調査より一部抜粋)

・学習指導案に関する内容

「指導案について丁寧に説明していただいたので指導案の作り方が分かりやすかった。他の授業で指導案を作る際にも参考にしている。」

「指導案の書き方や手順を一から丁寧に指導して下さったので、家庭科以外の科目の参考にもできると思った。」

「指導案の書き方を丁寧に分かりやすく説明して下さったので、書き方に対する自信が持てた。」

・模擬授業に関する内容

「模擬授業を行いそれに対する評価をしていただいたことから、反省点や良かったところなど様々な学びがあり、教育実習に生かすことができると感じた。」

「指導案の具体的な作り方を学ぶことで、様々な班の模擬授業を見て工夫や進め方を吸収することができた。」

「模擬授業を通して様々な受講者の意見をきくことで、よりよい授業方法を検討していくことができました。」

「特にロイロノートの使い方や活用法について学ぶことが出来てよかった。実際に指導案を作成し模擬授業を行うことで家庭科の全体の学びとそれぞれの単元でできる工夫について他の人たちから学ぶことが出来た。」

「小学生に対して家庭科をどのように教えるのかについて深く考えることができた。特に、最後の模擬授業では効果的に授業を行うように工夫して考えることができたので、実際の授業でも使えるような知識や技能が身についた。」

「また、模擬授業では、各グループの学習指導案や授業の進め方、授業を進めるにあたっての工夫などをみることができ、教師のたった一言の声かけで、児童の理解度は大きく変わると感じました。」

「この授業では家庭科の指導における視点を学んだ後、学んだことを活かし自分たちで模擬授業を考えた。その中で、どのような授業内での活動が児童にとって分かりやすく理解し易い授業につながるのか等という教師の視点を持ち授業を考えることができた。」

「子どもたちの興味を引く授業のネタや、指導案の書き方などいろいろな人の考えを知ることができ、模擬授業をしたことで、今まで知らなかった機能を使ったりしているものもあったので、知識面でもスキル面でも力がついたなと思いました。」

「また、今回は個人とグループでひとつの授業を作成しましたが、その過程で指導案の書き方を今まで以上に理解することが出来ました。特に目標と振り返りの一貫性や、評価の規準などを気にかけて作成できたと思います。ありがとうございました。」

・ロイロノート・スクールに関する内容

「ロイロノートを積極的に使用することが出来るようになり、授業の構想にもたくさん取り入れられるようになった。来年の教育実習や現場での実践にも活かしていきたいです！」

「ロイロノートを本格的に使っての授業が初めてだったので、シンキングツールやカードの使い方など、色々と経験することができました。」

「この授業では、初めてロイロノートを使う

機会をいただくことができました。ロイロノートの使い方、授業での取り入れ方を詳しく、実践を交えながら学ぶことができました。」

「指導案作成やロイロノートの活用に関する知識を身につけることが出来た。ロイロノートの使用法は全く知らなかったので実際使用することが出来てよかった。」

・その他

「家庭の事情も配慮した教師の声掛けや発問などの大切さについて学ぶことができたと思う。」

「教員採用試験の対策方法」

4)この授業を受けて自分の意識や行動等で変わったこと

DP 調査において、「この授業を受けて、自分の意識や行動等がどのように変わりましたか。」と尋ねた。家庭科観、教材研究、授業構想・授業実践、ICT などに関する内容に加え、教員志望へのモチベーションやなりたい教員像の明確化など進路に関しても挙げられており、本授業を受講することにより、意識や行動等に多面的な変化がみられたことは評価できるといえよう。

(DP 調査より一部抜粋)

・家庭科観に関する内容

「家庭科に関しての見方が変わった」

「家庭科は自分のこととして考えさせることが何よりも大切な教科だとわかった」

「今まで家庭科は実習か教科書教育のどちらかだと思っていたが、ロイロノートやグループ活動を用いると、新しい授業の行い方が出来ると思い、実践したいと思った。」

・教材研究に関する内容

「教材研究の方法を身に着けることができた。」

「家庭科と普段の生活の結びつきを知ることができ、普段の生活から意識することが出来るようになった。」

「児童の興味を引く題材を日常的に探すようになった。」

「普段から、家庭科の授業で使えそうな物はないかと探すようになった。」

「教材研究の材料を日頃から探すようになった」

た。」

・授業構想・授業実践に関する内容

「この授業を受けて、家庭科の授業を通してどんな力を児童に身に付けさせたいかイメージしながら授業構成を考えたり教科書や学習指導要領を読んだりするようになった。」

「模擬授業を通して、先生のアドバイスや指摘が具体的に的確だったため、授業を構想するときに細かい部分まで意識して考えることが出来るようになった。」

「教師の観点から授業を見ることができるようになりました。初めは、指導案を見てもどこを改善したら良いのか全く思いつきませんでした。先生のアドバイスや他の方の模擬授業を聞くうちに、少しずつ指導案の良いところや、直した方が良いところが分かるようになりました。」

「今までは模擬授業を見たり行ったりする機会がなかったので3年の実習に向けて何もできないと思っていたけれど、今から他の人の指導案を見たりして少しずつ行動しようと思うようになりました。また、改善すべき点がたくさん見つかったのもっと頑張らないといけないと感じました。」

「授業のめあてと最後のまとめを共通させるとこの大事さなどを意識するようになった。」

「学習のめあてから反れないような授業づくりを意識していこうと思うようになりました。」

・ICTに関する内容

「児童の実態に合わせてICTを活用して楽しい授業を行おうという意識が変わった。」

「授業づくりにICT機器を取り入れるという意識が高まった。」

「タブレット端末の活用に関する知識が増え、指導案を作成する際に工夫でくる幅が広がったと感じる。」

・その他

「家庭科では家庭の内容を扱うことが多く、子どもたちのプライバシーを考えて発問を考える必要があることを意識するようになった。」

・進路に関わる内容

「自分が教師になるという意識を以前よりも強く持てるようになった。」

「教師という仕事への意欲が高まりました。」

「これからも教師になるための意欲を高められるよう、学習を続けていきたいです。」

「将来の理想の教師像がより明確になった。」

「教員採用試験の意識が高まった」

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業では、愛媛県内の小学校の研究授業等で撮影した授業ビデオを活用している。小学校家庭科における学生の実践的指導力向上のために有意義なものとなっている。